旭川での法律事務員研修

東京出身の私は、1999年に北海道旭川市に移住し、11年間法律事務所で働いている。今回、縁あって旭川の法律事務員研修について紹介させていただくことになった。

法律事務所職員
平山 沙織

事務員有志の「学習会」

弁護士会主催の事務員研修制度がなかった旭川では、2000年からほぼ毎月1回、事務員が有志で「学習会」を行ってきた。

当初の参加者は旭川市内の事務員だけであったが、2001年に紋別^{もんべつ}というオホーツク海に面した街に日弁連のひまわり基金公設事務所が開設され、その後も、日本最北端の稚内、さらに名寄^{なよろ}、留萌^{るもい}と次々と事務所ができてからは、遠隔地の事務員も参加するようになった。

公設事務所の事務員は何時間もかけて旭川までやってくる。紋別から車で2時間半、稚内からは車で4時間半かかる。冬は路面が凍結しているためさらに時間がかかり、国道ですら吹雪で通行止めになることもある。当初、学習会は平日の午後6時頃から開催されていたので、間に合わせるためには午後から事務所を空けなければならず、弁護士は理解してくれるものやはり業務に差し障りがある。そこで、土曜日に学習会を行うことにした。ちなみに公設事務所の弁護士は事務員の学習会参加にとっても協力的で、交通費とホテル代を負担してくれている。

費用と学習内容

学習会の運営にかかる費用は市民会館の室料と配付資料コピー代で、一人あたり数百円である。講師はたいいてい事務員だが、たまに弁護士や裁判所職員に講師になってもらうことがある。しかし、講師料をお支払いする余裕はないため、ペットボトルのお茶1本のボランティアでやっていただいている。

学習の内容は参加者の希望で決めている。これまで希望が多かったのは、やはり破産・再生・任意整理についてであった。法律事務にかかわったことのない人が、就職してすぐに破産申立（法人を含む）の準備をしなければならないけれど、教えてくれる先輩事務員もいない、というケースも多い。そういう時は、旭川地裁の破産申立書式を用意して、「はい、まず1ページ目を開いてください」、というように手とり足とり学習していった。

また、東京の研修なら中級レベルの保全や執行などについて、就職したばかりの事務員が学習したいと言ってきたこともあった。何でも弁護士から頼まれるが、分からないのでとにかく勉強したいという声が多く、勤続年数でレベルをわけるといようなことはしてこなかった。参加人数も10名前後から多くても20名なのでゼミ形式で机を口の字にしてお互いの顔を見ながら行っている。

日弁連の事務職員能力認定研修

旭川弁護士会でも2008年秋から日弁連認定制度研修が実施されているが、勤続2年以下の事務員から「試験は受けられなくていい、講義を聞くだけでいいからぜひ参加したい」という声もあった。

大都市ではすでに研修制度が確立していて認定制度の研修以外にもたくさん研修の機会があるが、地方の小さな単位会ではこの制度しかない、という所も多いのではないだろうか。現在の能力認定制度研修の充実とともに、新人が全国どこでも同じように受けられる研修制度を早期に実現してほしいと思う。